

平成30年度第2回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成30年11月26日（月）午後2時～午後3時25分	
会場	新潟市役所本館6階 第3委員会室	
出席者	出席委員	山賀会長、西條委員、住吉委員、関谷委員、西海委員 阿部委員、井下田委員、石井委員、小林委員、鈴木委員 鶴巻委員、渡部委員 計12名 (欠席 中澤副会長、石本委員、星島委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、 廃棄物施設課長 ほか
主な議事	1 開会 2 議題 (1) 近年のごみ量の推移等について (2) 新潟市一般廃棄物処理基本計画について (3) 現計画の点検結果について (4) ごみ処理手数料収入の用途について 3 連絡事項 4 閉会	
主な議題	<審議の進め方> それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めた。	

<議題> (主な質問・意見等)

(1) 近年のごみ量の推移等について

○ 現計画の数値目標に対して、現在の達成状況はどうなっているのか。

市～ 資料3「新潟市一般廃棄物処理基本計画」2/2に記載。平成31年度(最終目標)家庭系ごみ量(1人1日あたり)474g(△20g)の△20gは、平成22年度(実績)494gに対して20g減という表記。

○ 資料1参考資料「政令市における1人1日あたりのごみ量(平成28年度)」では、1人1日あたりのごみ量が新潟市は16位、リサイクル率が2位となっているが、この数字の見方について。

市～ 資料1参考資料「政令市における1人1日あたりのごみ量(平成28年度)」※1に計算方法を表記しているが、ごみ総排出量には資源も含まれている。政令市間の比較としてはこの資料しかない。

(2) 新潟市一般廃棄物処理基本計画について

<意見等はなし>

(3) 現計画の点検結果について

○ 「3R優良事業者認定制度」は事業者に特典のような、具体的な経済的効果があるのか。

市～ ご指摘のとおり、事業者が達成しても経済的なメリットが感じられない状況なので、見直しを行う上で検討していきたい。

○ ごみをネガティブに捉えるのではなく、世界的には資源として再利用する考えが主流になっている。

市～ 現在も、ごみ焼却時の熱で発電して、それを売却している。再生可能エネルギーの地域活用について今後も検討していきたい。

○ 基本方針1「家庭系ごみを減らす3R運動の推進と三者協議」について、現在三者で行っている事業はなにか。

○ 市～ マイボトルキャンペーンは、市が企画し、コンビニなどの事業者の協力を得て、使い捨て容器削減のために市民が参加している

事業である。プラスチックごみ削減という社会情勢を追い風に、今後も推進していきたい。

- 食品残渣のリサイクルについて、どのような活動をしているのか。

市～資料 4-1 参考資料 2/2、「地域における生ごみ堆肥化活動（食品リサイクル地域活動支援事業）」、「段ボールコンポストの普及（食品リサイクル地域活動支援事業）」、「乾燥生ごみ拠点回収事業」などの他、学校給食残渣の飼料化・堆肥化を行っている。

- 古布・古着回収について、かなり状態が悪くないと回収されないようだが。また、回収された古布・古着はどのようなのか。

市～着ることが前提なので、着られるものを収集している。着ることができないものは他の用途に使われると聞いている。拠点回収されたものは、韓国会社を経由して東南アジアに出荷されていると聞いている。古着の市況は過去 3 年のトレンドをみると、若干ではあるが、金額は上がっている状況。回収される古着のクオリティが不明の場合は電話などでの問い合わせをお願いしたい。

- 乾燥生ごみの拠点回収の利用率について。利用者が少ないと思う。

市～資料 4-1 参考資料 2/2 に回収量を記載した。利用者数の資料はないが、9 か所の拠点に持ち込まれた件数は、平成 27 年度で 853 件である。

(4) 平成 28 年度 ごみ処理手数料収入の使途について

- ごみを資源として活用する考え方の一つとして、欧米では、ごみを微生物により堆肥化して、農場の収穫率向上に利用するケースが多い。資料 6-1 市民還元事業の予算配分では、⑦「家庭系生ごみ減量化の推進」に際立った予算配分がされていない。身近なごみが家計のプラスになるというようなライフスタイルの提案を考えてはどうか。

傍聴者

1名